

1. 略歴

- 1986 年 3 月 東京大学文学部哲学専修課程学士・文学士
- 1989 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士・文学修士
- 1990 年 10 月 東京大学教養学部助手（～1993 年 3 月）
- 1993 年 4 月 神戸大学文学部助教授（～2006 年 3 月）
- 2006 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2018 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

哲学、特に西欧近世哲学と現代フランス哲学

b 研究課題

＜内在性の哲学＞の体系化の作業として次の三つが現在の研究課題である。

- 1/西洋形而上学の形成史の探求とそれを背景とした＜存在の一義性＞の哲学の系譜学の作業。
- 2/現代フランスにおける差異哲学の検討。
- 3/非人間主義（inhumanisme）の哲学の展開。

c 概要と自己評価

上記三つの研究課題をより具体的には次のように遂行している。

1/ドゥッス・スコトゥスからスピノザに至る中世後期から近世にかけての＜存在の一義性＞の系譜学の意義を、とりわけスピノザ哲学に焦点をあてて解明すること。

2/現代における＜内在性の哲学＞の範型＝差異哲学としてのドゥルーズ哲学を解凍し、その意義を現代分析的形而上学や日本語の哲学と突き合わせながら展開すること。

3/限定された存在としての人間とは異なる他のありようへと変容していくことの可能性を肯定する思考としての非人間主義の哲学を、具体的な主題において展開すること。

これらに関して、とりわけスピノザ哲学の特異な位置づけを、ライプニッツ哲学との関連、ならびにその受容史をもとに解明する作業を行い、単著『スピノザライプニッツ問題』として刊行する準備を集中的に進めてきた。さらに、岩波書店から刊行予定の『スピノザ全集』編集委員として、全集刊行の準備を進め、幾つかの著作の翻訳を終え、刊行に向けて、全体の最終的な調整を行った。2022 年 12 月に刊行が始まる。また、2 に関しドゥルーズとドゥルーズ&ガタリの思索に関する単著二冊を刊行する準備を進めてきた。さらに、3 に関しても単著『非人間主義の哲学』の刊行に向けての執筆を進めてきた。

しかしながら、2020 年度は、教務委員長職についてコロナ対策に携わったために、学会活動に関わるができなくなった上に、とりわけ、2021 年 6 月の事故によって、外傷性のくも膜下出血を発症し、同年 9 月まで複数の病院に入院し、その後もリハビリが続いたため、主に『スピノザ全集』の刊行作業のみに時間をあてざるを得ず、その他の作業を完成させることが出来なかった。若干の後遺症を残しつつも復調したので、これまでの研究の集大成となる、上に挙げた三つの課題それぞれに関する大部の著作の刊行を期したい。

d 主要業績

(1) 論文

鈴木泉、「呼吸すること」、『ひとおもしろい』2、東信堂、96-100 頁、2020.7

(2) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（B）、鈴木泉、Izumi Suzuki、研究代表者、「『哲学雑誌』のアーカイブ化を基礎とした近代日本哲学の成立と展開に関する分析的研究」、2018～2021

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東洋大学、「近世哲学演習 IIA・IIB」・「哲学特殊研究 VA・VB」、2019.4～2020.3

(2) 学会

哲学会、理事、2006.4～

日本哲学会、評議員、2017.5～、理事、2019.5～
スピノザ協会、運営委員、2018.4～
日本ライブニッツ協会、理事、2018.4～